

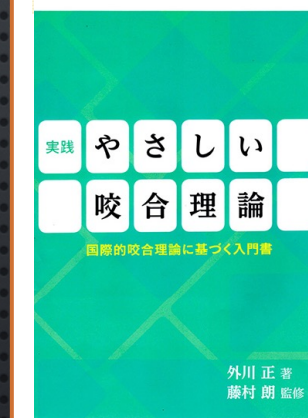
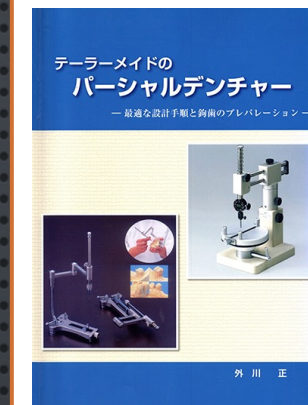
# 歯科開業医の談話室

- 01 上顎無歯顎印象採得
- 02 下顎無歯顎印象採得
- 03 日本人用無歯顎既製トレー
- 04 総義歯の難症例
- 05 クラスプと間接維持装置の配置
- 06 直接維持装置の設計
- 07 間接維持装置の設計
- 08 鉤歯の歯冠形態改造
- 09 大連結子の設計
- 10 根尖まで根管充填する方法
- 11 感染根管のプレパレーション
- 12 歯内療法用器具の操作方法
- 13 歯内療法器具の根管内破折防止
- 14 下顎孔伝達麻酔方法
- 15 歯科医師のための患者情報書類の書き方
- 16 半調節性咬合器の模型マウント方法
- 17 咬合理論
- 18 顎関節症

- 19 咬合病
- 20 変形性顎関節症
- 21 外側翼突筋の障害
- 22 円板後部組織の障害

## 23 中心位

- 24 中心位の採得方法
- 25 不正咬合
- 26 咬合分析
- 27 咬合調整
- 28 咬合調整のための診察・診断
- 29 咬合調整の方法
- 30 咬合調整の症例
- 31 咬合平面
- 32 咬合高径の理論
- 33 スマイルデザイン
- 34 アンテリアガイダンス
- 35 ロングセントリック
- 36 ブラキシズム
- 37 顎関節の雑音
- 38 オクルーザルスプリント
- 39 理想咬合



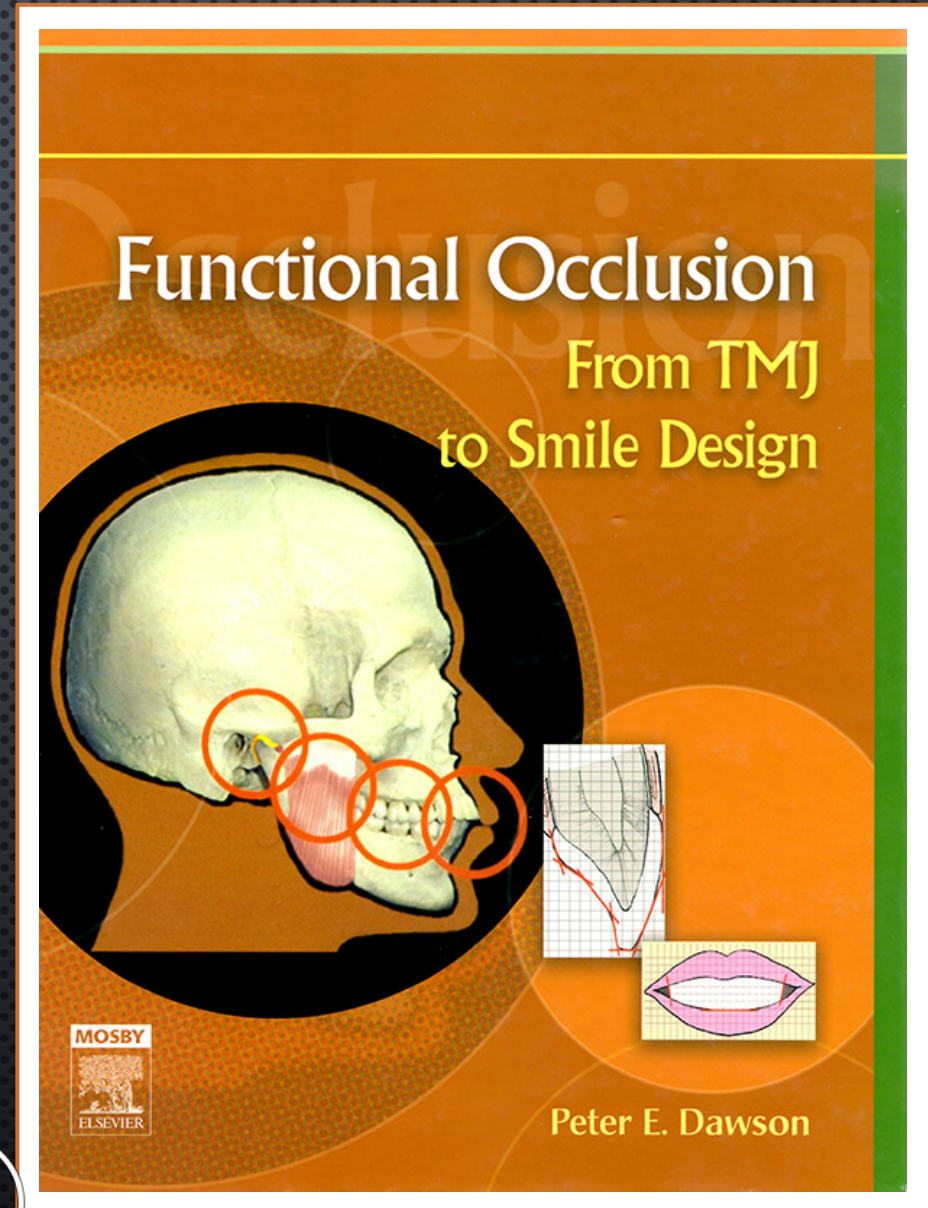
この談話室の記事に関係する著書を紹介いたします。  
いずれもシエン社およびアマゾンにて購入できます。



# 中心位

## もくじ

1. 中心位とは
2. 保母須弥也先生の定義
3. 日本補綴歯科学会の見解
4. 中心位の理解
5. 中心位の採得方法
6. 咬頭嵌合位と中心位が一致
7. 咬頭嵌合位と中心位がずれている
8. 中心位で模型を咬合器に装着する意味
9. まとめ



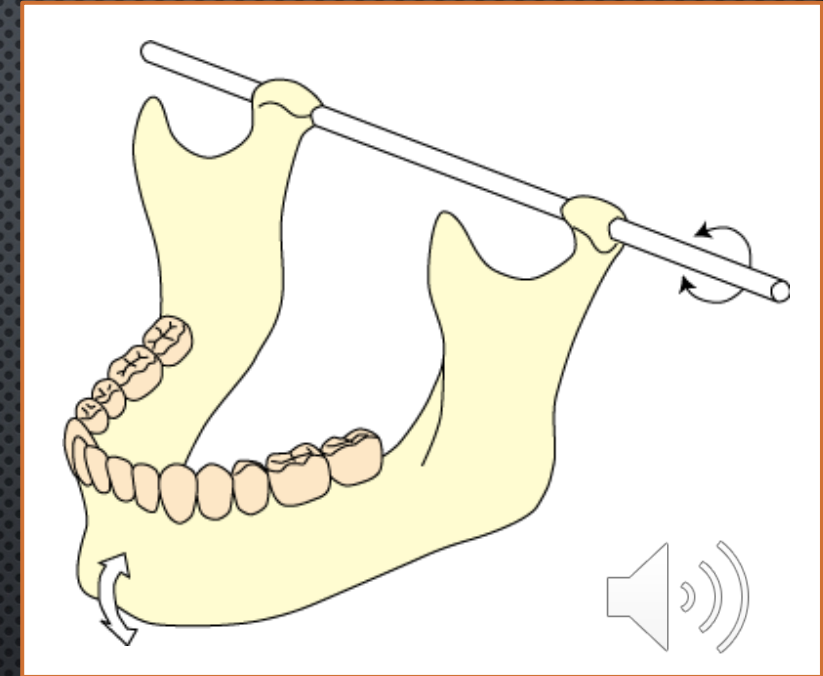
# 中心位

## 1. 中心位とは

Dawsonは、中心位に関して、Functional Occlusion の7から11章にかけて、最重要テーマとして解説しております。

中心位は、顎関節がもっとも安定した状態における上下顎の位置関係で、下顎が固定されている位置ではなく、右のイラストが示すように、左右の下顎頭がそれぞれの下顎窩にもっとも安定した位置に収まり、下顎が左右顎関節を軸として安定した回転運動を行うことができる、上顎に対する下顎の位置関係です。

Dawsonが中心位に関して多数ページにわたって詳細に解説していることから、中心位に関するすべての議論を極めることは容易ではありません。しかし、不正な咬合に苦しむ患者さんに対して Functional Occlusion に記載されている通りに診察して診断し、患者さんの咬合を中心位に適した状態に修正することは難しくありません。中心位に適した咬合を獲得した患者さんは、その瞬間に「噛み合わせが楽になった」と述べます。ぜひとも、中心位を学び不正な咬合に苦しむ患者さんを救ってください。



## 2. 保母須弥也先生の定義

日本における中心位の定義は、1979年に出版された保母須弥也先生の咬合学事典に記載されている「中心位は、下顎頭が下顎窩内で緊張することなく、最後上方に位置し、そこから自由に側方運動を行えるときの頭蓋と下顎の位置関係」がもっとも正確と考えます。さらに、咬合学事典では、中心位に関する認識がどのように発展してきたか、どのように臨床に応用するかについて4ページにわたり、多くの研究論文を引用して詳細に解説しております。



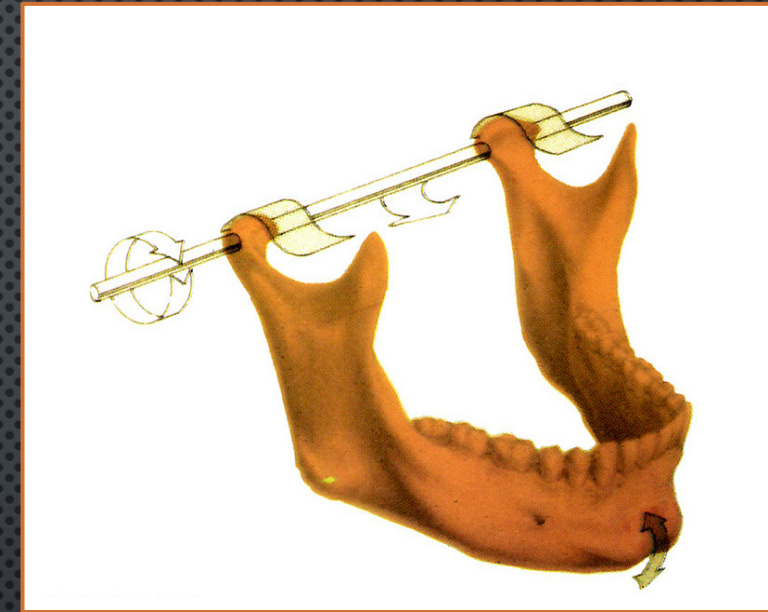
## 3. 日本補綴歯科学会の見解

日本補綴歯科学会は、中心位に関してGPT-9 (THE GLOSSARY OF PROSTHODONTIC TERMS Ninth Edition) の記載内容を紹介するにとどめ、学会として中心位の見解を示すことを回避しております。また、時代の異なる7つの定義を示して、それらを同列に扱う間違いを犯しております。しかも、中心位に対して「多様なニュアンスを有したものは専門用語として不適切であり、使用を控えるべき」とまで述べております。この姿勢は、これまでの先人が培ってきた中心位に関する議論を理解せず、中心位に関する理論的進歩発展を無視しております。

以上のことから、日本補綴歯科学会は、中心位をどのように認識し、臨床でどのように応用するかに関して示すことができておりません。日本補綴歯科学会の中心位に対する見解は、国際標準とかけ離れていると言わざるを得ません。



# 中心位



Functional Occlusionより

## 4. 中心位の理解

中心位は、1935年、Schuylerにより紹介されてから、多くの研究者により議論され、様々な定義とその採得方法が提唱されてきました。ただし「中心位は、歯の咬合に影響されない、顎関節にコントロールされたもっとも適切な下顎位」という基本的概念は、Schuylerが中心位を紹介したときから現在に至るまで変わっておりません。その基本的概念を理解することがもっとも大切なのです。

Dawsonは、著書の中で「中心位は、咬合の最重要因子である。中心位の決定は、咬合治療に最も必要とされる技術である。中心位の確認は、顎関節疾患の鑑別診断に必須であり、正確な中心位の記録は、最も経済的かつ効率的で、問題の無い修復・補綴治療を行うにあたり重要である。」としております。



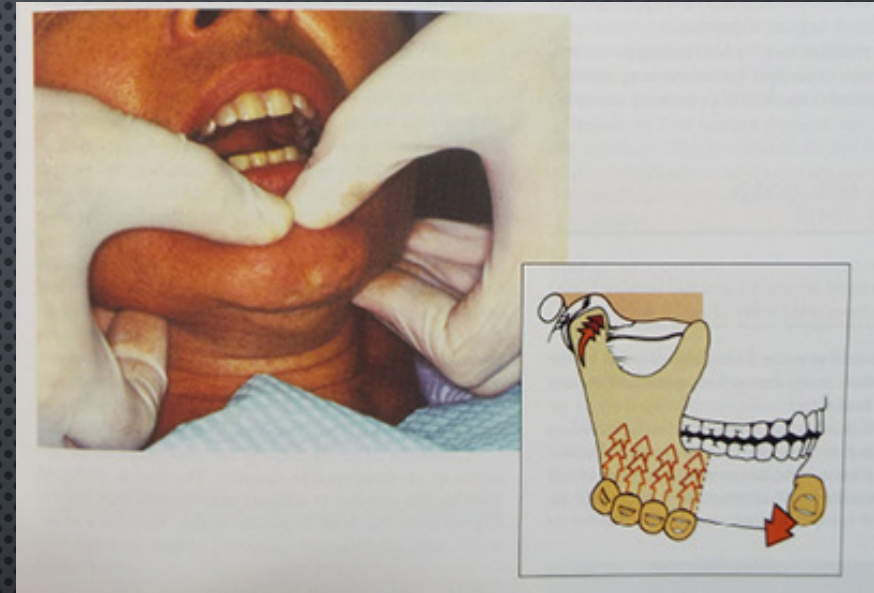
# 中心位

## 5. 中心位の採得方法



中心位の採得は、これまで多くの方法が開発されてきましたが、現在では、Dawsonの採得方法、すなわち、バイラテラルマニピュレーションが国際的にもっとも高く評価されております。バイラテラルマニピュレーションについては、改めて別の機会に解説いたします。

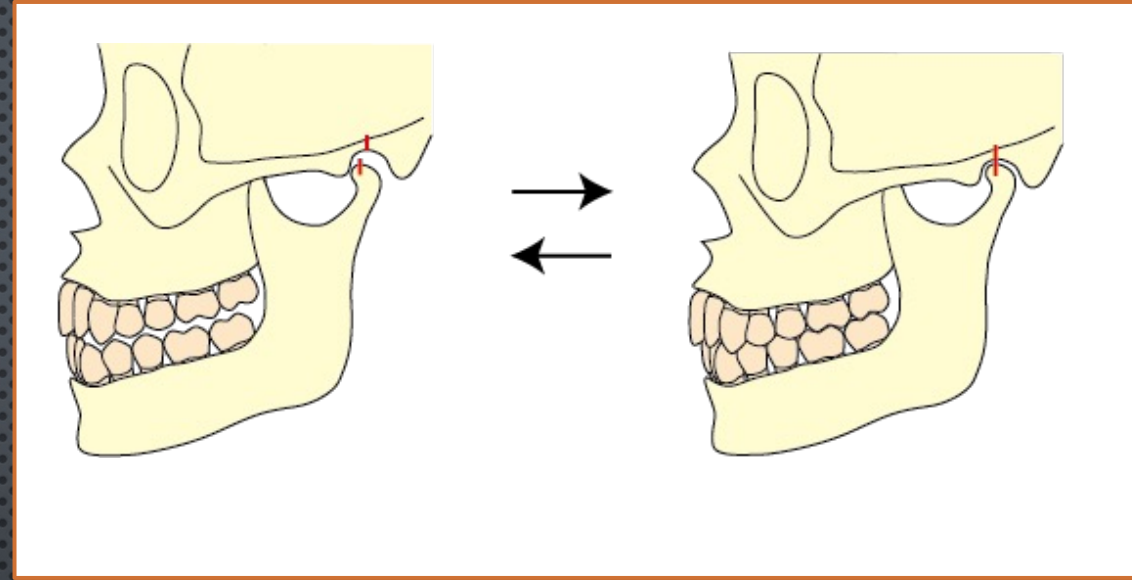
一方、患者さんが中心位を理解することができれば、患者さんがご自分で下顎を中心位に誘導できるようになります。その結果、診断と治療が容易にしかも正確に進めることができます。そのため、中心位の採得に際して、患者さんに「この下あごの位置は、顎の関節にとってもっとも都合の良い状態なのです」などと説明して、中心位を理解してもらう必要があります。



Functional Occlusionより

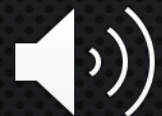
# 中心位

## 6. 咬頭嵌合位と中心位が一致



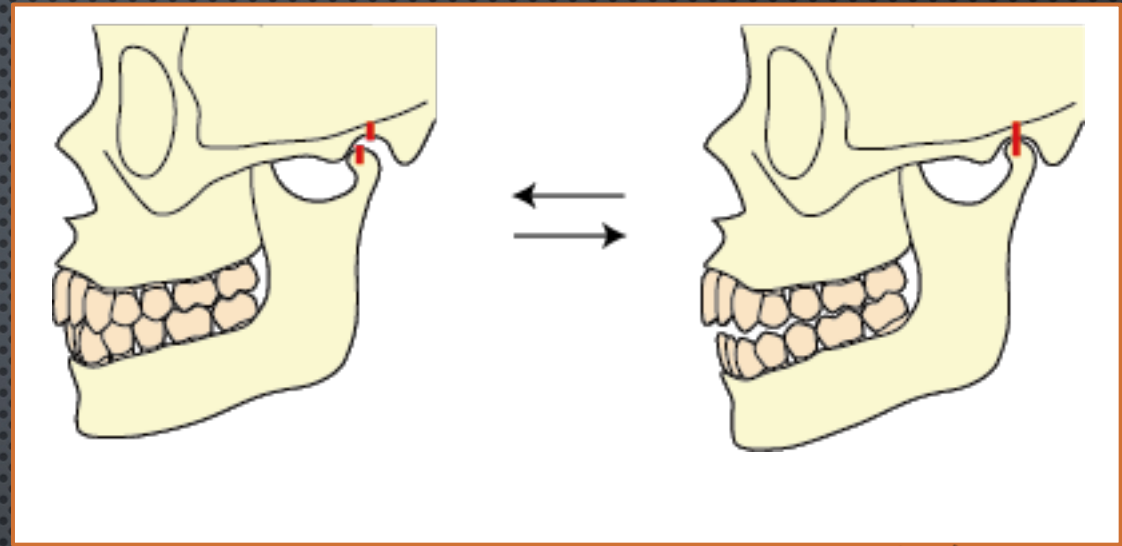
咬頭嵌合位は、上下顎の歯がもっとも多くの箇所安定して接触している下顎の位置です。一方、中心位は、左右の下顎頭が下顎窩の中でもっとも安定できる下顎の位置です。以上のことから、一人の患者さんにおいて、咬頭嵌合位と中心位の二つの下顎位を採得することができます。

正常咬合の場合、右上のイラストが示すように、下顎偏心位から咬頭嵌合位に戻したとき、咬頭嵌合位と中心位が一致します。この場合、顎関節が安定している状態で食べ物を強く噛みしめることができます。すなわち、咬頭嵌合位と中心位が一致あるいはその差が僅かな場合は、正常と見なされます。





# 中心位



## 7. 咬頭嵌合位と中心位がずれている

右上のイラストが示すように、咬頭嵌合位と中心位がずれている場合、咬頭嵌合位では下顎頭が中心位からずれます。下顎頭を中心位に移した場合、上下顎の歯は咬頭嵌合位からずれて一部の歯しか接触しないこととなります。その結果、顎関節と歯は様々な負担と障害を受けることとなります。すなわち、中心位と咬頭嵌合位の位置的ずれを確認することは、顎関節疾患の重要な情報を歯科医師に提供します。

また、中心位は下顎運動の基点なので、咬頭嵌合位が左右の下顎がどちらの方向にどのくらいずれているかをその基点から判断することとなります。すなわち、中心位という基点を確認できなければ、下顎運動の記録はもちろん下顎運動そのものを把握できないのです。

# 中心位

## 8. 中心位にて模型を 咬合器に装着する意味



Dawsonは、Functional Occlusionにて、中心位にて模型を咬合器に装着する目的を以下のように述べております。

- 1) 下顎頭が中心位にあるときの上下顎歯列に対する位置関係を見極める。
- 2) 正しい顎関係で歯列の調和を図る最良の治療法を決定することができる。
- 3) 咬合調整、歯科矯正、保存修復、口腔外科手術等、あらゆる治療法の選択肢を検討できる。としております。

具体的には、中心位における咬合の不正状態を観察することができます。さらに、模型上で試験的に咬合調整を行うことにより、治療後の咬合状態を予測することも可能です。



# 中心位



## 9. まとめ

Dawsonは、Functional Occlusionにて、下顎骨が中心位にある要件として、以下の5つの基準を示しております。

- 1) 関節円板が両側下顎頭上に適正に位置している。
- 2) 下顎頭—関節円板複合体が関節結節後方斜面に接して可能な限り最高点にある。
- 3) 下顎頭—関節円板複合体の内側極が骨で支えられている。
- 4) 外側翼突筋の下頭が収縮せず弛緩しており、受動的な状態である。
- 5) 顎関節が圧痛や緊張の徴候を呈することなく、強い圧荷重を受容できる。

この5つの基準を理解することにより、患者さんの中心位を採得し、咬合分析と咬合診断を成し遂げ、不正咬合を発見して解消し、顎関節疾患を完治させることが可能となります。

中心位を理解した歯科医師は、顎関節の病気に苦しむ患者さんを救い、完治した患者さんの喜びを肌で経験することができます。

## 【歯科開業医の談話室 23】

# 中心位

### 参考文献

- 1)保母須弥也:咬合学事典、書林、東京、1979.
- 2)Peter E. Dawson : Functional Occlusion From TMJ to Smile Design, MOSBY, St. Louis, 2007.
- 3)外川正:入門顎関節症治療のための咬合分析と診断, 金原出版, 東京, 2009.
- 4)外川正, 武田泰典, 加藤貞文, 阿部 隆, 千葉健一, 水間謙三, 岡田 弘:いわゆる「顎関節症」から分離して扱うべき疾患—とくに隣接医科との整合性を考慮して—, 日本歯科評論, 624:171~180, 1994.
- 5)Niles F. Guichet : Occlusion, Anaheim, Calif. , 1977.
- 6)最新医学大辞典, 医歯薬出版, 東京, 1987.
- 7)福井次矢:内科診断学第2版、医学書院、東京、2008.
- 8)Okeson JP : Long-term treatment of disk-interference disorders of the TMJ with anterior repositioning occlusal splints. J Prosthet Dent 1988 ; 60 : 611-616.
- 9)Dawson PE : Bad advice from flawed research. AGD Impact April : 30-31, 1995.



今回のテーマを気に入っていただければ👍をクリックしてください。  
質問あるいは疑問がある方は、下の公開コメント欄にお書き下さい。  
よろしければチャンネル登録をお願いいたします。

次回の項目は、歯科開業医の談話室24番目「中心位の採得方法」です。

## その他の著書

